

一山議員 それでは、通告してありました2件についてお伺いいたします。まず初めに全国学力テストとNIEについてお伺いいたします。文部科学省が実施した2013年度、全国学力・学習状況調査、いわゆる学力テストの結果、公立小学校では、最も低い正答率の都道府県と全国平均の差が初めて全科目で5ポイント以内に収まり、上位から下位までの格差が縮まり、文科省は、学力の底上げが進んだと分析しております。基礎的知識を問うA問題よりも知識の活用力を見るB問題の正答率が低く、文科省は、活用問題は、これまでと同様に課題が残っていると言っております。国語と算数、数学のBの平均正答率は、42%から68%で、Aと比べて各科目で9から22ポイント下回り、2007年度に学力テストを始めた時点では小学国語Bや小学算数AとBで全国平均と下位の都道府県の平均正答率の差が5ポイントを超えておりましたが、今回は全科目で5ポイント以内。中学でも初めて国語Bで5ポイントを超えなかったと言われております。根拠を明確にして自分の考えを書く、小学国語の問題の正答率が引き続き低迷し、中学数学では問題解決の方法、数学的表現を使って文章で説明することに課題が残ったが、過去の学力テストなど同一の漢字や計算問題の正答率が3ポイント以上高くなったのは改善の傾向としております。徳島県内公立学校の平均正答率を見ると、A問題では小学6年の算数を除いて全国平均を上回っており、B問題では中学3年の数学は全国平均を上回るものの、国語は小中ともに下回っており、基本的な知識は身に付いてきたが、活用する力に課題がみられると分析しており、結果を基に具体的な指導改善に取り組む方針で県教育委員会は、児童生徒の知識の活用を高めるため県学校マネジメント・学力向上実行プランを策定し、全ての教科で書く、話すといった言語活動の充実を図るよう指導しております。今回の国語のB問題で県内の小学6年、中学3年は、ともに全国平均を下回り、読解力向上のためには、読書が不可欠だが、児童生徒への質問調査では、1ヵ月に1冊も本を読まない県内の小学6年は11.6%、中学3年は33.2%に上り、物事に無関心な児童生徒の姿も浮かび上がると言っております。地域の行事に参加しているかとの問いに当てはまるとした小学6年は25.0%。中学3年は10.5%で、テレビのニュース番組やインターネットのニュースをよく見る小学6

年生は49.2%、中学3年は48.4%で、活用力の向上には多様な意見や考えに触れたり、豊かな体験をしたりすることが欠かせず、日々の過ごし方も課題として、県教育委員会は今回の結果を詳細に分析し、指導方法の改善案などを各学校に示すとしております。それから、授業で新聞を教材として活用するNIEが各地に広がっておりますが、全国学力テストでは、新聞を題材にした問題の正答率は伸び悩んでおり、文部科学省の担当者は、「関連の出題はまだ始まったばかりで、今後の取組みで正答率が上がれば」と言っております。

「新聞を読んでいますか」という児童生徒へのアンケートでは、週1回以上読むと答えたのは、小6が32%、中3が26%で、ほとんど、または全く読まないのは、小6で46%、中3で55%だったのに対しまして、徳島県で週1回以上読む小6は全国と同じ32%、中3では23%で全国よりも低く、ほとんど、または全く読まない小6は41%、中3は53%となっております。国立教育政策研究所は「新聞は身近な題材の一つ。読み書きの能力をつけるためにも活用は必要」と言われております。また、NIE学会は学校での新聞活用について、子どもたちに育んでもらいたい、生きる力は、社会に出て生き抜く力である。その社会について、新学習指導要領は、21世紀は新しい知識・情報・技術があらゆる領域で飛躍的に重要性を増す知識基盤社会の時代ととらえて、教科書だけでなく各種教材等についても質・量の両面での充実が必要と明記しており、学ぶ意欲は、学ぶ素材と大きくかわる。世の中には東日本大震災や原発事故、豪雨被害、世界的な諸問題、臓器移植の増加や東京オリンピックの誘致等、子どもたちが生きていく上で欠かせない意味と価値を含んだ出来事が相次いでおりますが、教科書には取り上げられない。NIEで授業が活性化するのは、子どもの知りたいに応える学びの挑発があるからで、言語活動は学び、考え、感じ伝え合う、人間生活の基盤であり、学習する上でのエンジンとも言えます。読解力の考え方の変化が言語活動重視につながっており、読解力向上につながっているのではないのでしょうか。るる申し述べましたことは皆さんがご存知かと思えます。そこでお伺いいたします。今回の学力テストの結果から、小中学校とも県内の公立学校の平均正答率から見て、本町の小中学校における良かったところ、悪かった課題のあったところなどあったかと思えます

が、どこが良かったか、また、悪いところがあれば、その課題に今後どのような取り組み改善が必要であるのか見解と考えをお伺いいたします。また、今回のテストで読解力向上や知識活用力が課題と言われておりますが、そのためには先にも申しましたように、授業で新聞を教材として活用する NIE が大切になってくるのではと思います。新聞活用については、情報読解力の育成を学習目標として重視していくこと。子どもたちが切り抜きたくなるような新聞記事を学習材として開発すること。また、子どもたち同士の協同的な学習活動を用意することなどが大切だと言われております。本町でも新聞活用、NIE に取り組まれていると思いますが、情報読解力を育成し、学びの意欲を喚起すると言われている NIE にはどのような方法・指導活用をされているのか。その成果、現状はどうか、また、課題等はあるのか、今後の取り組みと考えをお伺いいたします。それから、ご存知かと思いますが、全国学力テストで公立小学校の国語の成績が全国最下位だった結果を受けて成績が悪かった学校の校長名を公表したいという意向を示した県知事がいたようですが、学力テストの実施要領は各都道府県の教育委員会に市町村名や学校名を公表しないよう求めています。その知事の対応は議論を呼びそうですが、この件につきましても、ご見解をいただければお伺いしたいと思います。2点目にピロリ菌検査とペプシノゲン検査導入についてお伺いいたします。胃がんを引き起こすと言われる細菌、ピロリ菌が原因の慢性胃炎の除菌治療に健康保険が適用され胃炎段階から除菌することで、胃がん予防につながると期待は大きくなりました。胃がんは1990年代まで日本でがん死亡者数のトップを占めておりましたが、今は肺がんに次いで2位になりましたが、罹患者数はまだトップで患者数は一番多いようでございます。高齢社会となり、このままではますます増加すると見られております。県医師会によりますと、国内のピロリ菌の感染者は3千万人から4千万人、若い世代の感染率は低いのですが、40代以上で70%を超え、感染すると長い年月をかけて慢性胃炎を引き起こし、症状が進行した場合、胃潰瘍や十二指腸潰瘍、胃がんなどにつながると言われております。50歳以上の日本人の45%前後がピロリ菌に感染しているとされ、ピロリ菌が胃がんの発がん因子であることが分かっており、感染者のうち胃がんを発症するのは0.3%

程度との疫学調査もありますが、進行が早いがんもあるため、早期発見が重要だと言われております。ピロリ菌除菌で抑制できるようになるのは、胃がんだけでなく、胃潰瘍や十二指腸潰瘍、ポリープをはじめ、鉄欠乏性貧血や血小板減少症などの全身疾患も改善できると言われております。ピロリ菌感染の有無で胃粘膜の一生が決まり感染が少ないと高齢になっても胃粘膜は老化しないで20歳のままの状態が続き、なぜかまだ分からないが、ほとんどの胃がんはピロリ菌感染症による胃粘膜の炎症と老化によっておこると言われております。30歳未満の若年者の場合は、除菌でほぼ胃がんの予防が可能と言われております。胃がんの最大の原因と言われるピロリ菌の有無と胃の粘膜の萎縮度を調べることで、胃がんになりやすいかどうかチェックするもので、従来のエックス線検査よりも身体に負担が少なく気軽に受けられ、経済的負担も少なく受診率の大幅向上が期待されております。簡単な血液検査による、ピロリ菌胃がんリスク判定を導入し、従来のエックス線検査、バリウム検査、胃がん検診を段階的に廃止していく自治体が広がっております。リスク判定は血液検査だけでピロリ菌の有無と胃の萎縮度を調べ、胃がんになりやすいかどうか、リスクが低い順に A、B、C、D の4群で判定するもので、健康な人は精密検査を受けなくて済み、身体的経済的負担の軽減になる。がんになる危険因子を早期に見つけ除菌などで、がんを予防でき将来の医療費を削減できる。リスク群を絞り込むことで精密検査を効率化し、がんの早期発見につなげるなどの利点が挙げられております。本町でも特定検診やがん検診が行われていますが、胃がん検診は従来、エックス線検査、バリウム検査が行われております。胃がんのリスク検診を役立てる、ABC 検診と呼ばれるピロリ菌検査と胃粘膜の萎縮を調べるペプシノゲン検査を導入してはと思いますが、ご見解とお考えをお伺いします。また、併せて今まで導入していなかった理由があればお伺いをしたいと思います。

**枅富議長** 福井町長。

**福井町長** 一山議員のご質問にお答えいたします。全国学力テストと NIE に

つきましては、非常に専門性が高いので教育長の方からお答えさせていただきます。それで、ピロリ菌の検査とペプシノゲン検査の導入についてということで、お答えさせていただきます。現在、牟岐町では、全国の市町村と同様、胃がんの早期発見のため、X線検査による胃がん検診を行っており、この健診で精密検査の必要な方は、内視鏡による検査を受けていただいております。平成21年度以降の検診では、幸いなことに胃がんの患者は見つかっておりません。さて、委員がご提案のABC検診は、胃がんを発見するものではございませんが、胃がんの大部分が慢性胃炎から発生し、慢性胃炎の方の2分の1以上の方がピロリ菌が陽性であるということ、また、胃がん患者のピロリ菌陰性の方は、非常に稀であることなどから、同検診が胃がんの予防対策として大変有効であると考えております。ただ、ABC検診の有効性は、近年になり認識され始めたものであり、現時点では国の胃がん対策として推奨もない状況であり、徳島県下でも、未だABC検診を実施している市町村はないとのことでございますので、今後、胃がん検診のあり方も含め研究してまいりたいと考えております。

**枅富議長** 峯野教育長。

**峯野教育長** 一山議員のご質問にお答えいたします。まず、全国学力テストの結果から、本町の小中学校の良かったところ、悪かったところ、また、問題、課題解決のための今後の改善策についてでございますけども、今年度の学力テストは、4月に小学校6年生、28名、中学校3年生28名を対象に実施されました。結果の発表が8月下旬にあり、現在、各学校におきましては、結果を分析し、改善策について検討しているところであり、教育委員会としても分析を基に有効な改善策の検討をお願いしているところであります。結果発表から時間が少なく、まだ十分な分析はできておりませんが、今回の学力テストの評価できる点としまして、小学校では算数の基礎知識を見るA問題や漢字など伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項は正答率は高くなっており、中学校では国語、数学ともに応用力を問うB問題の正答率が全国平均正答率を上回る結果となっております。課題として、小学校では全国や県の傾向と同じように知識の応用や活用に難があり、中学校では、情報をまとめて意見を書くことや理由や根拠を示して説明することに課題が見られます。改善策としましては、

小中学校とも毎年学力向上実行プランを策定しており、学力テストの結果を踏まえて、子どもたちの現状分析や取り組みの見直しを図る中で、新たな目標の設定や対策を講じるなど、教育活動の工夫改善に取り組んでいます。また、小中一貫教育の取り組みとしまして、知の部会を定期的を開催し、小中学校の教職員が具体的な方策について協議をして、問題解決や連続性を大切にした学力の向上に努めております。次に NIE の活用、また、現状や課題についてのご質問でございますけども、新聞を生きた教材として学校教育に取り入れることは、幅広い知識の習得や思考力、表現力の育成、さらには学力向上につながる読解力の育成など、大きな教育的価値があると考えております。また、学習指導要領には、国語科に新聞に関する単元があり、子どもたちの言語力を育むうえでも新聞を教材として有効活用する教育活動が求められております。実際の活用例としまして、新聞作り、新聞記事についての感想文や1分間スピーチなど、国語科の授業や総合的な学習の時間の一貫としまして、本町の小中学校におきましても新聞が活用されております。教職員が授業の準備は、教材研究になかなか時間が確保できないという課題もございますが、子どもたちの教育に役立つものであり、学校での新聞の活用をさらに図ってまいりたいと考えております。次に全国学力テストの結果が悪かった学校の校長名を公表したいという知事についての見解はどうかというご質問でございますけども、文部科学省の全国学力テストの実施要領では、調査結果については、過度の競争や学校の序列化を招く懸念があることから、都道府県は、市町村名や個々の学校名を明らかにした公表を行わないということになっております。また、学力テストの目的は、子どもたちがどんな問題でつまづき、どの分野の理解が不十分なのか、そのことをしっかりと把握、分析し、学校における子どもたちの指導の充実や学習状況の改善に役立てることです。そんな意味におきましても、学校の校長名を公表したいという知事の発言は、明らかに学力テストの趣旨や国の方針に反するものであると考えております。以上でございます。

枳富議長 藤井健康生活課長。

**藤井健康生活課長** 町長の答弁にもありましたが、国の胃がん検診ガイドラインでは、X線を推奨しております、A B C検診については推奨しないとの見解があります。このため、徳島県内の市町村では、A B C検診を実施しておりませんし、牟岐町が検診業務をお願いしております、徳島未来健康づくり機構での検診項目にはない。そういった状況になっておりまして、導入には至っておりません。なお、A B C検診は血液、便、尿での検査が可能となりますので、採血をしております特定健診での検診項目にA B C検診を追加できないか、また、検診料金も含め、徳島未来健康づくり機構と協議してみたいと考えております。以上です。

**枅富議長** 一山議員。

**一山議員** A B C検診につきましては、十分検討していただいて、早期導入をお願いしたいと思います。以上で質問を終わります。